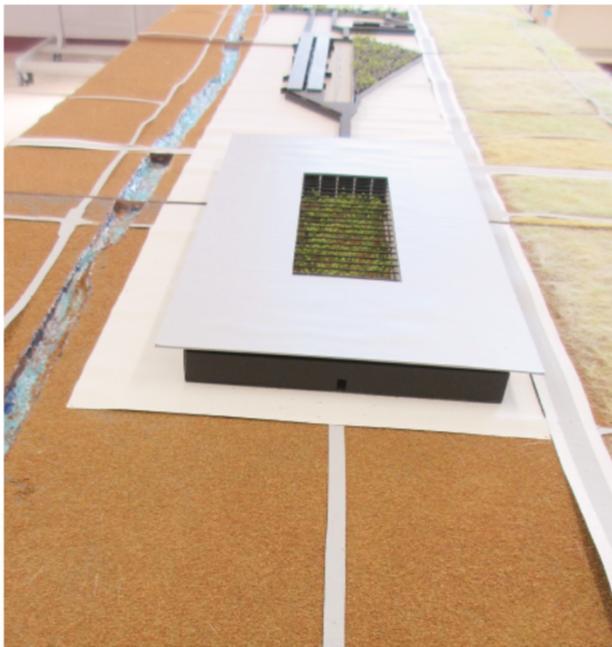


## 最優秀賞



2024年8月15日で、日本は終戦から79年目を迎える。戦争を経験した世代は日本の総人口の0.5%を下回り、直接戦争についての話を聞く機会も失われつつある。

戦争という出来事は、今や「語り継ぐべき記憶」から「歴史」へと姿を変えつつある。そのような時代の流れの中、平和教育も現代に合わせて変化している。貧しい暮らしから起こる窃盗の描写などに、「子ども達が真似してしまう」といった、戦争とは無関係の理由で教材を取り下げられたものもある。

しかし世界では情勢が不安定になり、いくつも戦争の火種が増えている。そこで私は「戦争を避けるとい

## 選択を辿る

—宇佐海軍航空隊滑走路跡から  
第二次世界大戦期を見つめ直す—

加藤萌花さん（日本文理大学）



「選択肢」を生み出すために、長い建築空間を考えた。

宇佐市にある宇佐海軍航空隊滑走路跡に沿いながら、あえて人を建築内に閉じ込め、戦時中の圧迫と緊張、不安感を持たせる空間を設計した。

自己選択による空間の変化は「自分がとった選択の結果」として「他の選択を考える余地」すなわち「戦争を起こさないための選択肢」を生み出す。

日本文理大学 加藤萌花さん